

水道事業基盤強化に係る千葉県基本計画（千葉県版水道ビジョン） 概要

第1章 水道事業基盤強化に係る千葉県基本計画の概要と基本理念

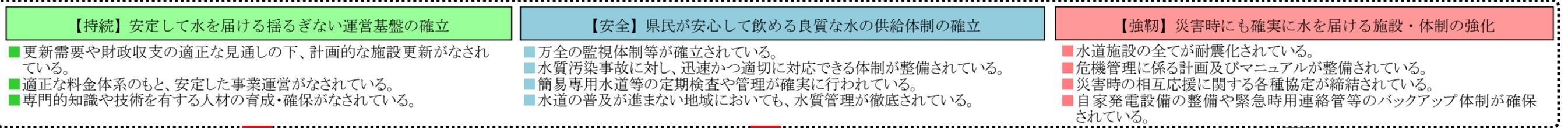
I 趣旨

- 将来にわたり県民に水を安定して届けるためには、水道事業体の経営健全化、水道施設の更新や耐震化、技術の確保・継承など様々な課題に対処する必要がある。
- 本県では、これまで市町村水道総合対策事業補助金等の各種補助制度の活用により、水道事業体の経営基盤強化に努めるとともに、「県内水道の統合・広域化の当面の考え方」等を公表し、県内水道の統合等に向けて、取り組んできたところである。
- 本県においても、2020年をピークに人口減少が見込まれる中、将来にわたり県民に安定して水を届けるためには、県内水道事業体の運営基盤の更なる強化を図る必要があることから、県内水道が目指すべき目標を掲げ、それを実現するための今後10年間の取組を提示した「水道事業基盤強化に係る千葉県基本計画」を策定する。

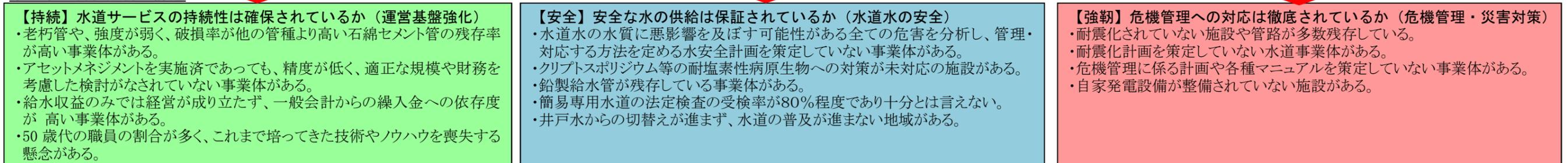
II 計画期間 2028年度までの10年間

III 基本理念 **次世代の千葉を支える水道の確立**

第3章 将来における県内水道の理想像

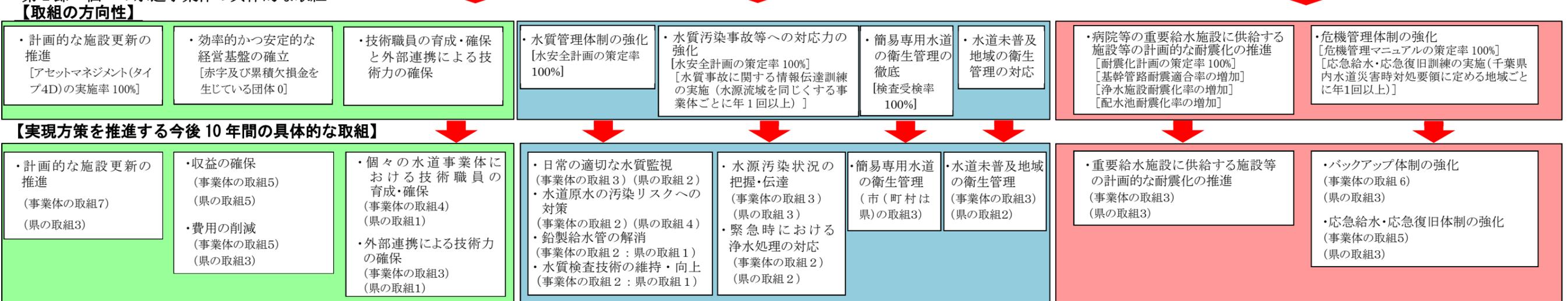


第4章 現状分析・課題



第5章 今後10年間における取組の方向性と具体的な取組

第1節 個々の水道事業体の具体的な取組



第2節 統合・広域連携による運営基盤強化の方向性

今後、本県においても人口減少が見込まれる中、将来にわたり県民に水を安定的に供給するためには、水道事業体の経営健全化、技術の確保・継承、施設の整備・更新といった課題の解決を図る必要があり、個々の事業体において、上記の取組を推進する必要があるが、個々の事業体の取組のみでは限界があることから、統合・広域連携を積極的に進めていく必要がある。

こうした中、本県は水源に恵まれておらず、水源の大部分を利根川水系に依存していることや、同じ利根川水系の水を使用する水道事業体の経営基盤に大きな地域格差があることから、人口減少下においても、安定的かつ確実に県内全域に水を供給するため、県内全域を一つの圏域と捉え、広域的自治体である県が広域的な水源の確保及び水道用水供給事業の役割を担い、基礎的自治体である市町村が末端給水事業を担うという考え方を基本に、以下のとおり統合・広域連携に取り組むものとする。

○水道用水供給事業
運営基盤の脆弱な九十九里地域・南房総地域の用水供給事業体と県営水道の統合をリーディングケースとして取り組み、その検討状況を勘案し、適切な時期に、他の水道用水供給事業体との統合に向け、地域の市町村等と十分な対話を進め、合意形成を図って行く。

○末端給水事業
・県営水道が給水している地域
県と市が給水している市がある一方、県のみが給水している市があり、各市の水道事業に対する関わり方も異なっていることから、これまでの経緯や県と市の役割分担を踏まえながら、地域の水道事業の在り方について、関係市と十分に対話を進めながら検討を行って行く。

・上記以外の地域
水道事業体の経営基盤が地域により大きな格差がある中、地域の水道用水供給事業体から同様に受水している点や、社会的条件が類似している点から、現在の水道用水供給事業体とその構成市町村の枠組みを基本に、県内8ブロックを設定し、このブロックを基本に各地域において統合・広域連携の具体的な検討を行うことが望ましい。そのため、県においては地域における統合・広域連携の検討等に対し、必要な支援を行って行く。